

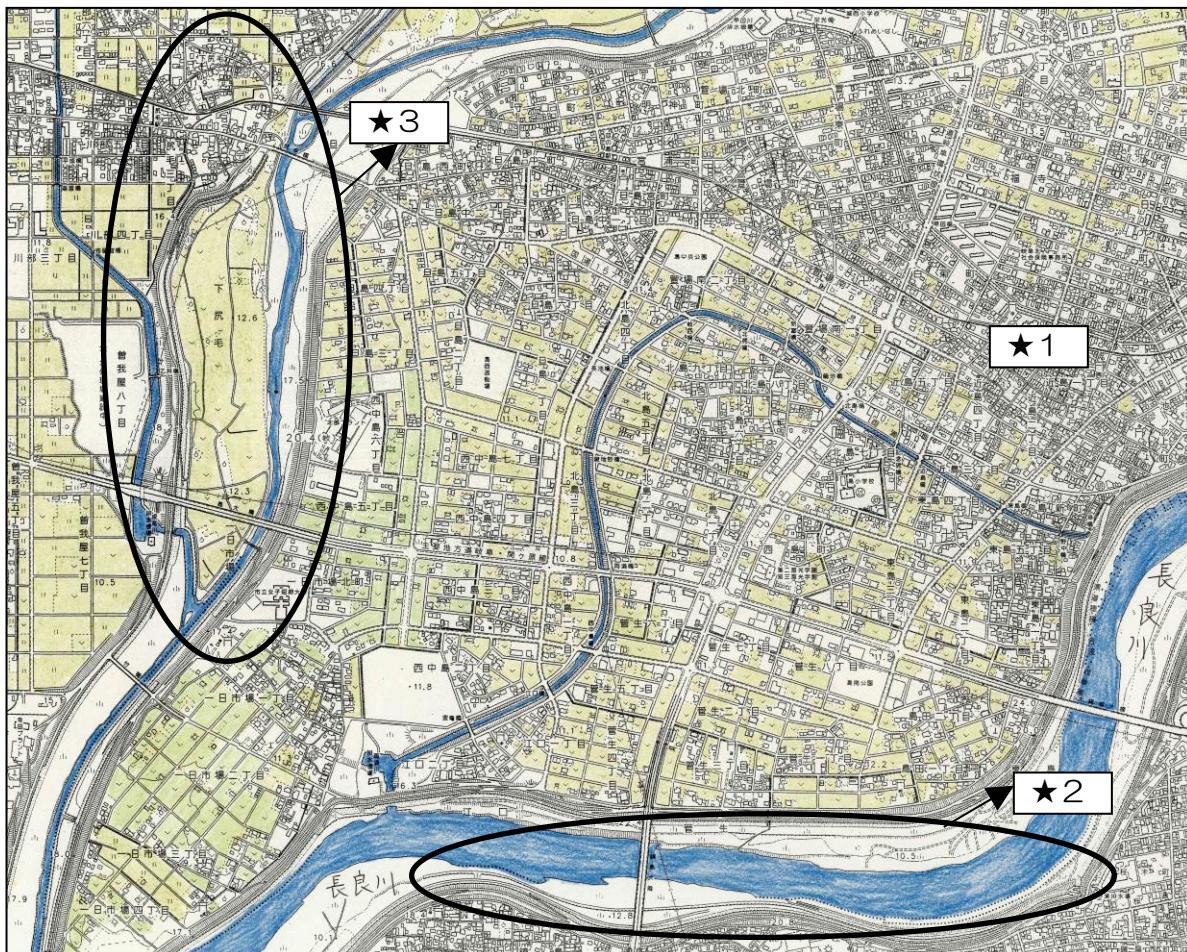
## 授業で使える当館所蔵地図

No. 57『岐阜平面図』

作成年：2002（平成14）年

サイズ：63×89cm

作 者：岐阜市



### 【解説】

岐阜県岐阜市島地区の自作した土地利用図である。島地区は、岐阜市を北東から南西にかけて流れる長良川と、山県市から流れる伊自良川、さらに、本地区の中央を流れる両満川という3つの川が流れしており、水資源が豊かな地域である。また、これらの水が地下にしみこむことで地下水となり、その水は畑作に大いに利用されている。島地区はその地名からも分かる通り、古くは輪中地帯であり、水害に悩まされてきた地域でもある。その際、上流からは養分を含んだ水はけのよい土が運ばれてきて、現在この地域でさかんに行われている畑作（枝豆栽培）の基盤を成している。

### ★1 岐阜市の枝豆栽培

岐阜枝豆の本格的な栽培は、1957（昭和32）年に岐阜市島地区に導入されたところから始まった。その後、栄養価の高い野菜として需要が伸び、作付面積が増加していった。長良川流域の肥沃な土壤で栽培された枝豆は、大粒で甘みに富み、県内をはじめ、京阪神市場で最高級ブランドとしての評価を受け、別格扱いされている。岐阜市では販売総額が最も多い農産物で、全国的に見ても上位に位置している。

また、栽培については、岐阜市島地区のように、浸透性が高い砂地であることや、澄んだ川の水が近くにあることが大切な条件になっている。

### ★2長良川

長良川は、岐阜県郡上市の大日ヶ岳に源を発し、三重県を経て揖斐川と合流し、伊勢湾に注ぐ木曽川水系の一級河川である。濃尾平野を流れる木曽三川の一つである。なお、下流の一部では愛知県にも接し、岐阜県との県境を成している。

鵜飼が行われたり、「清流」と呼ばれたりしていることからも分かるように、水質がよい。

かつては下流域で木曽川・揖斐川と交流・分流を繰り返していたため、木曽川の「支流」という扱いになっていたが、木曽三川分流工事により、現在は堤防によって河口まで流路が分けられている。また、昭和初期まで中流域の岐阜市長良福光で長良古川と長良古々川が分派していたが、1939（昭和14）年に完成した長良川改修工事によって締め切られ、現在の姿となった。

### ★3 伊自良川

伊自良川は、岐阜県を流れる河川である。木曽三川の長良川支流の一級河川である。

岐阜県山県市と本巣市の境の鎌ヶ谷山を水源とし、南方へ流れる。途中に人造湖の伊自良湖がある。岐阜大学の東を流れ、岐阜市正木で山県市から流れる鳥羽川と合流する。その後、板屋川や古根尾川と合流し、岐阜市合渡で長良川と合流する。

伊自良川流域では、ゲンジボタルが見られる等、美しい水質である。

#### 【用語について】

##### ・輪中

輪中とは、集落を水害から守るために周囲を囲んだ堤防や、堤防で囲まれた集落のことで、それを守るための水防共同体も指す。岐阜県南部と三重県北部、愛知県西部の木曽川、長良川、揖斐川とその支流域の扇状地末端部から河口部に存在したものが有名である。加納輪中のように、集落が山すそや高位部に接していて、上流側からの大量の水が流入する可能性が低い為、完全に堤防に囲まれていないものもある。

岐阜県では、宝暦年間（1751年～1764年）に行われた宝暦治水やオランダ人技師デレーケによる明治の治水事業が知られている。

##### ・畑作

畑作は、古くは焼き畠を「畑」と言い、そうではないものを「富」と言った。現在ではどちらについても「畑」という字を用いて表記する。

畑作の成立条件としては、以下の二つが大きく影響している。

①自然条件…気温、降水量、地形、土壤 など

②社会条件…市場への距離、伝統や生活様式、経営の形態、農業政策 など

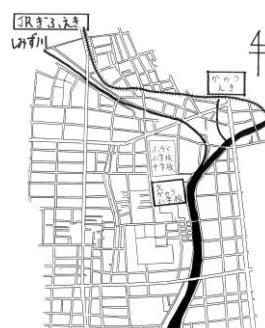
なお、畑作をはじめ、農業に適した土地には、「広い平地」「豊富な水」「作物にあった土壤」という条件が見られる。

#### 【利用の例】

○自らが住む地域と比較し、地域の特徴についての認識を深めることができる。

→島地区が畑作に向いた土地であることが分かる。

<島地区と加納地区との比較の例>

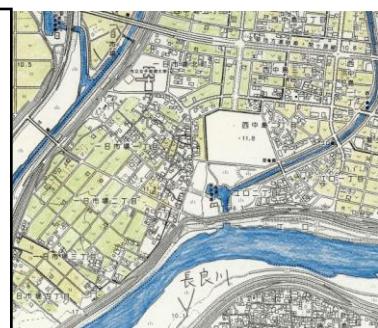


##### 『加納の様子』

- ・家や店が多くある。
- ・平らな土地が広がっている。
- ・北から南に荒田川が流れている。
- ・加納は、田や畠は少なくて、建物が多い地域だといえる。

##### 『島の様子』

- ・家や店よりも、田や畠が多くある。
- ・東から西に向けて長良川が流れている。
- ・加納と同じ様に、山がちな所ではなく、平らな土地が広がっている。



##### 【児童が地図から捉えた地域の様子】

加納地区も島地区も、どちらも平らな土地だが、加納には家やお店が多くあり、島には田や畠が多くあるという違いがある。

##### 【教師の発問】

どちらも平らな土地で川が流れているのに、島地区には畠が多くあるのはなぜだろう。

→児童の生活経験から様々に意見を出した後、資料『島地区の土（文章資料と実物資料）』を示す。

##### 【予想される児童の発言】

島に田や畠が多くあるのは、近くに長良川という大きな川が流れしており、上流から運ばれてきた栄養のある土がたくさんあることと、平地で大きな田や畠を作りやすいという条件がそろっているからだ。

○交通網から、作物が出荷される経路が分かる。

→枝豆を始め、島地区で収穫された作物は、岐阜環状線を通って出荷される。

農業を成立させている条件として、市場への出荷経路や距離も大切な要因であることが分かる。